

## 茨城縣下松蛄蜥被害報告

和田 義正

本年茨城縣下各郡松林ニ松蛄蜥ノ發生甚シカリシヲ以テ該縣廳ヨリ左ノ通牒ヲ各郡市役所ニ發セリ  
縣下各地松林ニハ毎年松蛄蜥發生シ多少ノ害ヲ及ホセシカ本年ハ地方ニヨリ殊ニ其發生著シク猖獗  
ナル勢ヲ以テ蔓延スルノ狀有之候間此際嚴ニ戒飾ヲ加ヘ遺漏ナク驅除豫防ヲ勵行セラレ度若シ到ル  
所ノ松林悉ク害ヲ受ケ數十年來故障ナク生長セシ大森林モ一朝ニシテ枯損スルカ如キ慘狀ニ陷ルコ  
トアリテハ本縣林業上ノ一大憾事ナルヲ以テ充分御注意御督勵相成度依命此段及通牒候也  
三十七年六月二十九日

內務部長

各郡長宛

### 松蛄蜥驅除法

一、幼蟲ハ發見次第枝葉ヨリ撲チ落シ之ヲ集メテ壓殺スヘシ然レトモ此際見落シタルモノハ老熟後絲縷  
ヲ吐キ葉間其他樹皮ノ裂ケ目ニ粗繭ヲ營ムカ故ニ三四週間以內ニ又繭ノ捕殺ヲ計ラサルヘカラス若  
シ此期ヲ誤ルトキハ蛹ハ化シテ蛾トナリ自在ニ飛翔シテ無數ノ卵子ヲ松樹ノ梢部ニ産附シ引續キ夏  
ノ終リニ於テ第二期ノ被害ヲ來スノ原因トナルモノナレハ遅クモ營繭期迄ニ充分驅除ノ効ヲ奏スル  
コトニカムヘシ

猶七月上旬更ニ左ノ通牒ヲ發セリ

松林ノ害蟲ナル松蛄蜥松毛蟲驅除ノ件六月二十九日農發第二四八號依命及通牒置候ニ就テハ左記  
事項取調ノ上本月末日迄ニハ必ス御報告相成度依命此段及通牒候也

七月九日

內務部長

各郡長宛

- 一、被害地
  - 二、被害ノ面積、本數及其見積價格
  - 三、被害ノ最モ多キ樹齡
  - 四、驅除シタル狀況及其成績
- 右通牒ニ基キ報告シタルモノヲ綜合スレハ左ノ如シ

郡名	町村數	被害面積	本數	價格	樹齡	一本價格	備考
東茨城	一	二	四、五〇〇	五	八	壹厘強	壹本ノ價格ハ被害本數ニテ損害價格ヲ除シタルモノナリ
那珂	三	二四八	四九七、〇〇〇	六、七四	十年乃至二十年	壹厘強	
多賀	一	一五	二二〇、〇〇〇	一二五	八年乃至十二年	壹厘強	
新治	二九	五〇五	一五四、六一〇	二七一	七年乃至十五年	壹錢八厘弱	
筑波	一二	一二五	三九八、〇六六	四、七二	十年内外	壹錢貳厘弱	
眞壁	二	二〇	五三〇〇	一五五	八	貳錢九厘強	
結城	二	四	一五八、〇〇〇	三三〇	二十年乃至三十年	貳厘強	
猿島	二	二二	一四一、〇〇〇	三、九〇〇	十四年乃至二十年	貳錢八厘弱	
北馬	二	一〇	一〇、〇〇〇	二五〇	十年乃至二十年	貳錢五厘弱	
合計	五四	九五二	一、四八八、五七六		七年乃至三十年	壹錢參厘	

被害地視察概況

前表ニ據ルトキハ縣下被害地總面積ハ九百五十二町步ニシテ其損害額一萬二千九百二十二圓トアルモ小官ノ被害地方大體ヲ視察セシ所ニヨレハ其被害面積タル到底此ノ如キ小面積ノモノニアラスト思考ス則チ前表數字ニ顯ハシタル被害面積ナルモノハ縣廳ヨリ發セシ通牒ニ基キ郡役所ヨリ更ニ復其調査方ヲ管下各町村役場ニ命シタル結果各町村役場ニ於テ調査報告シタルモノヲ集合シテ得タルモノニシテ其調査方法タル一樣ナル精密度ヲ以テ調査セラレタルモノニアラス各郡又ハ各町村ニヨリ區々ニシ

テ其精疎ニ至テハ實ニ不同甚シキモノナリト認ムコレ只町村役場ヨリノ報告ヲ集メタルモノナレハ縱令被害地アルモ町村役場ヨリノ報告ナキトキハ表面被害ナキモノトナリ居ルヲ以テ實際ノ被害面積ト前表報告ニヨル被害面積トノ間ニハ非常ナル差違アルコト、思考スコレ本縣下松林ノ非常ニ多キニモ係ハラス報告ニヨル被害面積ノ少ナクシテ實地ノ觀察ニヨレハ殆ント各地到ル所ノ松林ニハ林齡ノ壯幼ヲ問ハス現時何レノ松林ニアリテモ樹梢ニ枯枝枯葉等ヲ存シ本年初夏ニ於ケル被害ノ程度ヲ想像シ得タルナリ最モ現今ニアリテハ被害跡地モ大ニ恢復セラレタルモ猶其當時ノ損害ノ痕跡ヲ殘シ居ルモノニシテ勿論其當時ニアリテモ害蟲ノ多少又ハ被害ノ大小等ハアリタルヘキモ松林トシテ此蟲害ヲ蒙ラサリシ所ハ實ニ僅少ナリシナラント想像スコレ今日視ル所ニヨレハ何レノ松林ニテモ多少ノ被害アリ且第二回發生幼蟲ヲ見ルヲ以テナリ

或松林ノ如キ初夏被害ノ盛ナリシトキニハ若松ノ葉ハ殆ント蝕盡セラレ松林ハ遠見珊瑚珠林ノ如キ狀ヲ呈セリト言ヘル林モ今日ニアリテハ大ニ恢復セラレ只其一部ニ枯枝又ハ枯葉ヲ存スル位ノ程度ニシテ全ク樹ノ枯死セシモノヲ見ス只猿島郡沓掛村大字沓掛字山崎木村喜一氏所有十五六年生松林ハ被害ノ最モ甚ダシキモノニシテ一昨三十五年ノ暴風ノ爲大ニ衰弱シ居リシ所ヘ昨冬隣接松林ヲ伐採ノ上農地ニ開墾シタルカ爲其松林ニ居リシ松蛭蝨及在來此ノ松林ニ居リシ松蛭蝨トノ合併蝕害セシ爲他ニ比シ一層被害ヲ大ナラシメタルモノニシテ此松林ニハ枯損木ノ多クヲ生セリ而シテ同所ニテ猶甚ダシキ一例ハ雜木林ノ林緣ニシテ道路ニ接シタル所ニアリシ六七年生ノ松樹ニ附キシ松蛭蝨ハ初メ其松葉ヲ悉ク蝕ヒ盡シ而シテ其新芽ヲモ蝕シ最早食物盡キタルヲ以テ遂ニ隣接セル杉樹ニ移リ杉葉ヲモ蝕スルニ至レリ

前述ノ十五六年生松林ハ著シキ損害ヲ蒙リシモ幼蟲ノ充分發育シ將ニ繭ヲ營マントスルノ期ニ當リ黴菌ノ發生甚シク殆ント黴菌ノ爲幼蟲ハ斃レ消滅シタルノ有様ニシテ今日第二回發生幼蟲ヲ見ルコト稀

ナリ然ルニ僅カ隔リテアル六七年生松林ニ些少モコノ黴菌ニ罹リテ斃レタル松姑蜥ナク之ニ反シテ第二回發生幼蟲ノ多ク存スルヲ見タリ即此黴菌ハ松姑蜥ヲ斃スノ力ハ強キモ其傳播區域ノ遠ク及ホサ、ルノ一證ナラント想像ス而シテ又現ニ附近民家ノ蠶兒ニモ何等影響無カリシヲ以テ見レハ民家ニ近キ松林ニ該黴菌發生スルモ只主ニ松姑蜥ノ除去ニ效アルモノニシテ養蠶ニ對シテハ甚シク危險ヲ及ホスコトナカラント思考スコレ獨リ沓掛村ノミナラス予ノ視察シタル各郡ノ被害松林ニハ大抵黴菌ニ罹リ斃レタルノ松姑蜥アリタルモ何地ニ於テモ此黴菌カ蠶兒ニ傳染シタルヲ聞カサレハナリ

### 原因及結果

本年當縣下ニ於テ松姑蜥ノ被害甚シカリシ原因トシテ予ノ考フルモノ左ノ如シ

一、松姑蜥ノ發生順序タル既ニ明カナル如ク決シテ春期ニ於テ新タニ發生スルモノニアラスシテ前年ノ夏期孵化セシ幼蟲ノ秋期氣候寒冷トナルニ及ヒ樹梢ヨリ降下シ樹皮ノ裂ケ目又ハ根際ノ落葉等ノ中ニ蟄伏シ冬越シ、タルモノカ本春氣候温暖トナルニ及ンテ其潜伏所ヨリ樹梢ニ昇上シ松葉ヲ蝕害シ初メタルニ本年ハ氣候温暖ニシテ且降雨少ナカリシ爲殊ニ松姑蜥ノ發育良好ナリシナリ即チ天候ノ爲斃ル、モノ少ナク從テ其害ヲ逞フセシモノニシテ天候カ松姑蜥ノ發育ニ適當ナリシコト第一原因ナラント思考ス

二、當縣ハ既ニ總論ニモ述ヘタルカ如キ東ハ太平洋ニ接シ大部分平坦ナル即チ海面上ノ高サノ至テ低キ地ナリ而シテ氣候温暖ニシテ森林帶上暖帶林ニ屬スルノ暖地ナルヲ以テ櫛類ハ其郷土ナリ然レトモ當地ハ東京其他ノ大市場ヲ近クニ控ヘ車馬又ハ鐵道ノ便良好ナルヲ以テ多クハ絶對的農地即チ關係的林地ニシテ山林ノ多クハ薪炭材ヲ作ルヲ以テ目的トスルカ故ニ其輪伐齡ノ如キモ至テ短ク赤松林ノ如キモ多クハ三十年ヲ越ヘス故ニ何レノ松林モ皆壯幼ノモノ多ク從テ六七年乃至二三十年ノモノ大部分ヲ占メ居ルヲ以テ同シ松林ニテモ殊ニ其被害大ナリシモノナラント思考ス若シ同一面積ヲ

有スル松林アリトスルモ輪伐齡七八十年ヲ以テ施業スルモノナランカ老壯幼各齡級ノ林分交互位置  
スル場合ニハ縱令松蝨ノ害ヲ蒙ムルモ當縣ノ如キ三十年以内ナル壯幼齡級ノミノ松林ノ受ケタル  
程ノ損害ハナキモノト思考ス

本年初夏ニ於ケル松蝨ノ被害ハ劇烈ナリシトハ雖トモ馬尾蜂ノ寄生ニヨリテ斃レタルモノ并黃疆菌  
ナル黴菌ノ寄生ニヨリテ斃レタル即チ天然驅除人工驅除法ヲ實施セラレシハ至テ少キ如ク只筑波郡ニ  
在リテハ郡長市村成美氏ノ熱心ナル督勵ニヨリ他郡ニ比シ多ク人工驅除ヲ施シタルカ如シ然レトモ縣  
廳ニテ通牒ヲ發セラレシハ既ニ六月下旬ニシテ蟲害ノ甚タシキ爲民間ヨリ驅除法ノ問合ハセテ受ケタ  
ルニヨルモノニシテ人工驅除ヲ實施セラレシ所ト雖トモ稍時期遅延セリノ行ハレタル爲割合ニ各松林  
ニ第二回發生幼蟲少ナク初夏被害ノ甚シカリシ林モ今日ニ至リテハ大ニ恢復セラレタルヲ以テ只林木  
ノ生長ヲ害セラレタルノミニシテ枯死シタルモノナク從テ其損害額モ當初ノ見込額ヨリハ少額ナルヘ  
シト想像ス之ヲ要スルニ本年ハ春以來氣候温暖ニシテ降雨少ナカリシヲ以テ松蝨ノ發育旺盛ニシテ  
松葉ヲ蝕荒シタル爲初夏ニ於テハ著シク被害ノ人目ニ映シ殆ント枯死スヘシトマテ想像シ其損害額ヲ  
見積リタルモ其結果ハ只生長ヲ害セシノミニシテ全ク枯死スルニ至リシモノナカリシ故ニ其損害額ハ  
當初想像セシ程ニハナク之ニ反シテ實際ノ被害面積ハ報告ニヨル被害面積ヨリ餘程多キコト、思考ス  
而シテ人工驅除法ノ餘リ注意シテ實施セラレサリシニモ係ハラス第二回發生幼蟲ノ少ナクシテ今日視  
察シタル所ニヨレハ其結果ノ甚シク惡シカラサルハ蓋シ馬尾蜂并黃疆菌ノ寄生ニヨリ幼蟲ノ將ニ蛹化  
セントスルニ當リテ此天然驅除ノ爲斃死セルコト其一原因ナラント想像ス  
松蝨ノ充分發育シタル幼蟲ハ二寸八九分ノ長サニ至リ全體堅キ毛ヲ蔽ハル、ヲ以テ食蟲動物中ニテ  
モ餘リ之ヲ食スルモノアルヲ聞カス只鳥ノ之ヲ食スルヲ知ルノミ然レトモ當縣下ニハ鳥類至テ不足ノ  
様見受ケラレ殊ニ鳥ノ如キハ縣下旅行中殆ント其姿ヲ見シコトナキ位ナリシヲ以テ鳥類ノ爲驅除セラ

レンコトハ甚タ少ナキコトナラント想像ス

### 驅除及豫防法

元來松林ニ於ケル松蛄蝨ノ害タル一時ハ被害ノ劇烈ニシテ殆ント枯死スルナラントマテ見ユルモノニテモ夏ヲ經過シ再ヒ恢復シ只其生長ヲ害セラレシニ止マルモノ多シ又其害タルヤ連年引續キ大害ヲ及ホスモノニテモナク數年若八十數年ニ時々大害ヲ及ホスモノナリ而シテ松蛄蝨ノ驅除タル之ヲ全滅セシムルコトハ殆ント至難ニシテ殊ニ樹齡高キ林分ニアリテハ實ニ驅除法困難ナリトス之レ其損害額ニ比シ驅除費ノ多額ヲ要スヘケレハナリ而シテ人工驅除法又ハ驅蟲劑ヲ施スモ今日經濟的ニ且完全ニ驅除ノ目的ヲ達スルノ良法ヲ知ラス只予ノ最モ經濟的ニシテ且良結果ヲ得ヘシト考フルモノハ黃驅菌ヲ培養シテ之ヲ害蟲ニ施シ黴菌ノ傳染ニヨリテ驅除スルニアリ最モ此ノ黴菌ハ空氣中ノ濕氣少ナキカ又ハ餘リ氣候寒冷ナルトキハ其勢力薄弱ナルヲ以テコレヲ施スニハ天候ニ注意スヘキナリ

然レトモ最モ安全ナルハ驅除法ヲ講スルヨリモ寧ロ豫防法ヲ講スルニアリ即チ其豫防法トハ造林法ニヨリ間接ニ被害ヲシテ或局部ニ止メ又ハ少ナカラシムルニアリ

造林法ニヨル豫防法トシテ左ノ二法アリ

#### 一、松林ノ一林分面積ヲシテ制限スルニアリ

多數所有者ノ集合ヨリ成ルモノト雖トモ一塊大面積ノ松林アランカ一朝松蛄蝨ノ非常ナル被害ヲ受クルトキハ實ニ手ノ下シ様モナキコトアルヘシ然レトモ若シ一林分面積ヲ制限シテ其周圍ニハ他樹種多クハ濶葉樹ヲ以テ圍繞スルトキハ一林分松蛄蝨ノ害ヲ蒙ルモ松蛄蝨ノ性トシテ遠ク他ノ林分ヘ越ヘテ行クコトナキヲ以テ被害モ只其林分ニ止マリ又人工驅除ヲナスニ當リテモ仕事上大ニ好都合ナリト信ス

#### 一、最モ良好ナリト信スル豫防法ハ赤松ト他ノ樹種譬ヘハ濶葉樹(櫟等)トノ混濬林ヲ作ルニアリ是最モ

害蟲豫防ニ就テ効力多クシテ當縣ノ如ク薪炭材產出ヲ目的トスル地方ニアリテハ赤松櫟ノ中林ヲ仕立ツルトキハ下木タル櫟ハ主ニ薪炭トシ上木タル赤松ハ薪炭及用材トシテ利用スルコトヲ得林業上地方ノ維持ニ就テモ最モ合理ニシテ且經濟上ニモ收益多キコト、認ム